

2026年度版

子どもたちの 未来へつなぐヒント集

～切れ目のない支援を目指して～



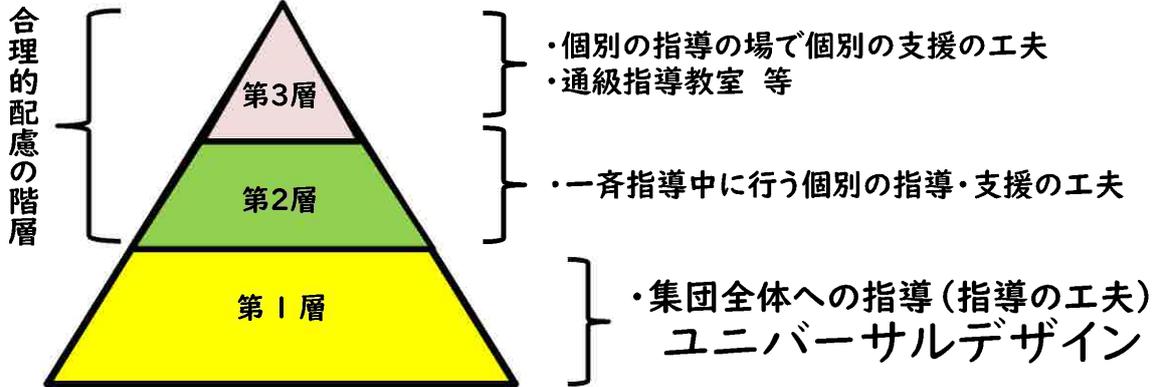
※ 本資料は、ユニバーサルデザインの
フォントを使用しています。

福島県教育庁
県北教育事務所

すべての子どものよさや可能性を最大限に引き出すために ～ユニバーサルデザインの視点から～



通常の学級にも学びや学校生活に困難さを感じながら過ごしている子どもたちがいます。どうすればよいのでしょうか？



すべての子どもにとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点で学級全体を支援し、見通しをもって安心して学び、生活できる環境づくりを行います。その上で、特別な支援が必要な子どもに個別の支援を行います。これらを学校全体で共有し、取り組むことが重要です。



高めよう！ 自己有用感！ 自己肯定感！

学級全体を支援するユニバーサルデザイン



「すべての子どもにとって分かりやすいユニバーサルデザインの視点で学級全体を支援」って大変そう。どうしたらいいのですか？

ユニバーサルデザインのコツの3本柱、先生はきっと行っていますよ。キーワードを挙げてみましょう。



学習環境を整えましょう！（教室のルールを整えましょう）

- 1 ルールのある空間でみんなが快適に生活するための環境づくり
- 2 暗黙のルールなど、目に見えないものを見えるように

決まりやルールを「見える化（可視化）」し、自治的で、子どもたちが安心して過ごすことができる教室環境づくりが大切です。



- 基準が明確で分かりやすい学級ルールをつくる。
- 黒板や黒板周りにはその授業に関係するもののみ掲示する。
- 板書を構造化する。（チョークの色使いの統一、学習の流れを示すなど）
- 刺激になるものをカーテンや布で覆う。
- 予定を変更する場合は必ず予告する。（変更となった活動はいつ行うのかも伝える）

ユニバーサル
デザインの
コツ





分かりやすく伝えましょう！（授業のユニバーサルデザイン）

- 1 視覚化＝学習内容や考え方・資料等を図解や画像などの視覚情報として示す
- 2 焦点化＝学習目標や内容を絞り込んで授業展開の構造をシンプルにする
- 3 共有化＝話し合い活動などで学ぶ内容を互いに共有して確実に定着させる

「分かった・できた」を目指す授業デザイン。ふくしまの「授業スタンダード」にもあるいつもの授業ですね。



「構造化された板書」「思考過程の可視化」も「授業スタンダード」にありました。分かりやすい発問や指示も大切なことと聞きました。見通しがもてると安心して活動できますね。

- 「大事なことを一度だけ言います。」など、子どもの注意を引きつけてから話す。
- 指示は短く、具体的に伝える。
- 重要なことは、板書する。
- 絵や図、文字などを用いて指示内容や順序を可視化し、見通しがもてるようにする。
- 教師の視線、しぐさ、声の大きさやトーンを変化させるなど、子どもへの伝わりやすさを考える。



称賛し、認めましょう！（人的環境を整えましょう）

- 1 多様性を認めるかかわり
- 2 子どもたちの誤答をいかに価値付けるか、間違いに共感できるか
- 3 子ども「いいところ」が発揮されやすい環境づくり

クラスに温かい雰囲気をつくることは、「分からない、できない」と素直に言える環境づくりにつながります。



私が子ども一人一人のよさに気付く、「認めているよ」「分かっているよ」という姿を見せることが大切ですね。「誤答の価値付け」も、「授業スタンダード」にありました。

- 得意なこと、興味・関心があることに注目する。
- よさや得意なことを生かし、人の役に立った、人に喜んでもらえた等の経験ができるようにする。
- 頑張りを認め、当たりまえのことを自然に行っている子どもへの称賛を忘れない。
- 子どもの実態や行動に応じた効果的な褒め方を探す。
※ 他人への迷惑行為などには、毅然とした態度で接することが大切です。



いつものかかわりや授業に「ユニバーサルデザインのコツ」をちょっと意識して取り組むことで、今まで以上に子どもたちが見通しをもって、安心して学び、生活できるようになります。学級全体への支援と個別の支援をバランスよく行い、すべての子どものよさや可能性を引き出すことで、子ども一人一人の自己有用感、自己肯定感をよりよく育てていきましょう！



学びの困難さに応じた指導の工夫！

～ 困難さに対する個別の支援 ～

- Aさんは、授業中に集中が途切れる。
- 座席の位置を工夫する。
(廊下側や窓側は避ける、支援しやすい前列や見本になる友達の近くにするなど)
- 活動の終わりを具体的に示す。(何分、どこまでなど)

- Bさんは、整理整頓が苦手で、授業準備や課題への取組が遅れる。
- 何をどこに置くのかを具体的に決めて写真で示す。
- ケースにしまう、ファイルに綴じるまでを活動にして、学級全体で取り組む。

- Cさんは、板書を書き取るのに時間がかかる。
- ワークシートを活用して書く内容を精選する。
- 書き取る時間を保障する。
- 特別支援教育支援員等がホワイトボードなどに書き写し、それを見ながら書き取る。
- タブレット等で撮影する。



学びにくさに応じた工夫にはどんなものがあるのでしょうか？
詳しく知りたいのですが、何か参考になるものはありますか？

小・中学校学習指導要領解説各教科編には、「10の視点」で困難さを見取り、それに応じた指導内容や指導方法の工夫が示されています。



◇ 困難さ【10の視点】

- | | | |
|-------------------|---------------|----------------|
| ① 見えにくさ | ② 聞こえにくさ | ③ 道具の操作の困難さ |
| ④ 移動上の制約 | ⑤ 健康面や安全面での制約 | ⑥ 発音のしにくさ |
| ⑦ 心理的な不安定 | ⑧ 人間関係形成の困難さ | ⑨ 読み書きや計算等の困難さ |
| ⑩ 注意の集中を持続することが苦手 | | |

※この視点以外にも、様々な困難さが考えられることにも留意が必要です。

教科の配慮例(国語)

教科書がうまく読めないよ。



Dさんは、一行とばして読んでしまうことが多いな。どんな「困難さ」があるのだろうか？
【10の視点】からすると、①・⑨・⑩かな？



Dさんは行を追って読むことが難しいのかな。工夫の意図・手立てに書いてあるように、教科書を拡大コピーして、読む行に定規を当てて読むようにしてみよう！

【小学校 国語の配慮例】

1 文章を目で追いながら音読することが困難な場合

【10の視点^{※1}】から予想される困難さ
(例) ①見えにくさ ⑨読み書きや計算等の困難さ ⑩注意の集中を持続することが苦手^{※2}
＜そのための指導の工夫の意図、手立て＞
自分がどこを読むのかが分かるように教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具(スリット等)を活用することなどの配慮をする。





文字が大きくて、見やすいな！定規を当てているからどこを読めばいいか分かりやすくなった！

教科の配慮例(体育)



勝敗がかかると、いつもモヤモヤ、イライラしちゃう。

【小学校 体育の配慮例】

1 複雑な動きをしたり、バランスを取ったりすることに困難がある場合

【10の視点¹⁾】から予想される困難さ

(例) ①見えにくさ *ボディイメージの把握の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

極度の不器用さや動きを組み立てることへの苦しさがあることが考えられることから、動きを細分化して指導したり、適切に補助しながら行ったりするなどの配慮をする。



2 勝ち負けにこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合

【10の視点】から予想される困難さ

(例) ①心理的な不安定 ②人間関係形成の困難さ

<そのための指導の工夫の意図、手立て>

活動の見通しがもてなかったり、考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることがあることから、活動の見通しを立ててから活動させたり、勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認したりするなどの配慮をする。



みんなと同じようにやってみたら、先生にも、友達にも褒められて、気持ちよくゲームに参加できた。



Eさんは、勝つまでやりたいと言うことが多いな。どんな「困難さ」があるのだろう？

【10の視点】からすると、⑦・⑧かな？



Eさんは、どのように行動したらいいのか分からないのかも。工夫の意図・手立てに書いてあるように、勝ったとき、負けたときの表現方法をみんなで確認しよう。そして、見通しがもちやすい簡易ゲームでよい行動の成功体験をさせてみよう！



10の視点で子どもを見ることは参考になります。しかし、障がいや程度で対応は一律ではありません。子ども一人一人の実態から考えることが大切なのです。



学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行わないで、指導や手立てを工夫していくことが大切です。

特別支援教育センターHP掲載の「コーディネートハンドブック」には、学習指導要領各教科解説編に対応した具体的な実践事例が、教科ごとに示されています。



障がいのある児童生徒などへの配慮
～学習指導要領編～

困難さに対する個別の支援内容については、「学習指導要領解説 自立活動編」などを参考に検討した上で、「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」に盛り込みます。

担当する先生方で共有、活用し、進級、進学時には適切に引き継ぐようにしましょう。「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の計画の様式や作り方は、特別支援教育センターHP掲載の「コーディネートハンドブック」を参考にしてください。



(1) 個別の教育支援計画とは
～なぜ、作成・活用するのか～



(2) 個別の教育支援計画の活用
～いつ活用するのか？
どうやって活用するのか？～



(1) 個別の指導計画とは
～なぜ、作成するのか？
どう作成するのか？～

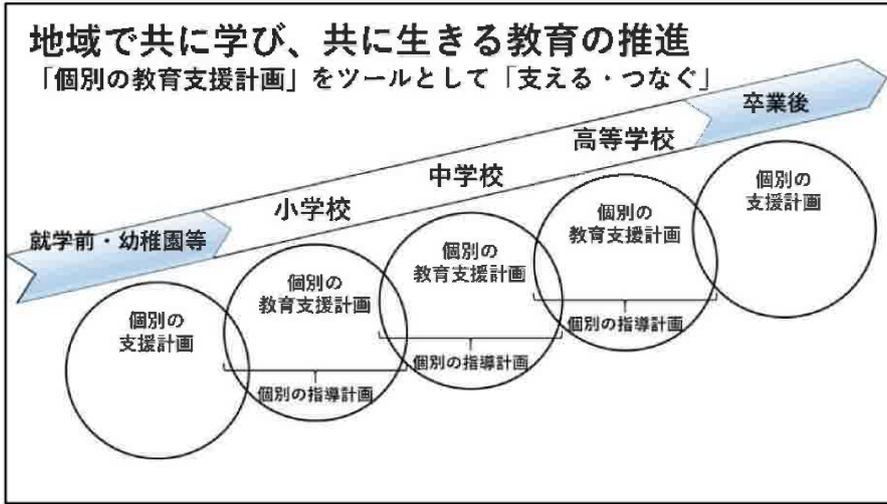


(2) 個別の指導計画の活用
～いつ、活用するのか？
目的にあった計画の活用へ～

支える・つなぐ「個別の教育支援計画」

「個別の教育支援計画」とは

平成15年度から実施された障害者基本計画においては、教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障がいのある児童（生徒）の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における児童（生徒）の望ましい成長を促すため、個別の支援計画を作成することが示されました。この個別の支援計画のうち、幼児児童生徒に対して、教育機関が中心となって作成するものを、「個別の教育支援計画」といいます。



「個別の教育支援計画」は、障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、長期的な視点で幼児から学校卒業後までの一貫した支援を行うために学校等が中心となって作成するものです。

作成にあたっては、合意形成までの過程を大切に進めましょう。



「個別の教育支援計画の活用」に当たっては

就学前に作成された個別の支援計画を引き継ぎ、必要な支援を適切に設定したり、関係機関や進路先に在学中の支援の目的や内容を伝えたりするなど、就学前から学校卒業後までの切れ目ない支援に生かすことが大切です。その際、個別の教育支援計画には、教育、医療、福祉、労働等の多くの関係者が関与することから、保護者の同意を事前に得るなど、個人情報の適切な取扱いに十分留意する必要があります。

引継ぎだけではなく、校内における共通理解やケース会議など日常的に活用することが大切です。



「個別の教育支援計画」の活用例

- 学校間引継ぎ（就学前「個別の支援計画」・相談支援ファイル等 ⇒小学校）
- 進級時引継ぎ（担任⇒担任）
- 校内委員会、校内生徒指導委員会、職員会議
- 合理的配慮申請の根拠資料として（受験時）
- 専門家との情報共有（SC、SSW、医師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士等）
- 関係機関との連携（療育機関、放課後等デイサービスなどの事業所、学童クラブ等）



作成プロセス例

アンケート・面談

家庭訪問・教育相談

校内委員会での検討

本人・保護者との合意形成

校内での共通理解

関係機関との情報共有

年度途中の見直し

年度末の見直し・引継ぎ

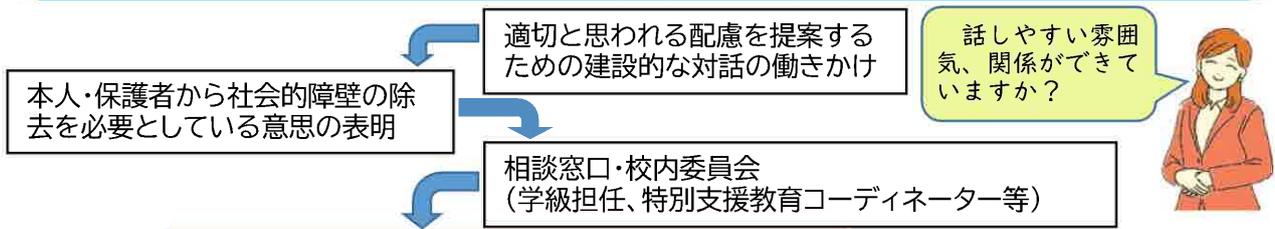
等



子どもたちを支え、学校や関係機関等とつなぐツールとして、本人や保護者と相談し、合意形成を図りながら作成することが大切です。

「個別の教育支援計画」を保護者も持っておくことで（原本またはコピー等）、関係機関の利用等で活用でき、本人への切れ目ない支援が実現できます。

各学校における合理的配慮の提供プロセス(例)



本人・保護者及び学校との協働的な取組

調整

- 丁寧な実態把握(困難な状態・支援目的の確認など)
- 合理的(必要かつ適当な変更・調整)かどうか
- 負担過重になっていないかどうか
 - * 場合によっては、基礎的環境整備として市町村教育委員会や外部機関等に相談することも考えられます。
- 合理的配慮の検討(代替案の検討を含む)
 - 一方の主張で決定されるものではなく、調整事項に従って、今、できる合理的配慮について建設的、協働的に考えていくことが大切です。

「傾聴・受容・共感」のカウンセリングマインドを大切に、「こんな方法を考えてみました！」など一緒に考え、作成していく姿勢が重要です。

本人・保護者との合意形成

決定 「個別の教育支援計画」等への明記(作成)

切れ目のない支援の提供のために作成します。ケース会議などでも活用できます。

提供 合理的配慮の提供

評価 定期的な評価

見直し 柔軟な見直し

転校・進学等で新しい環境になれば、基礎的環境整備が異なるので、合理的配慮の提供内容も変わります。

なぜ、合意形成が必要なのですか？

- 今、必要な合理的配慮の話合いをすることにより、本人・保護者が自分の特性や、自分にとって必要な支援についての理解が深まります。
- 進級、進学、就職等で状況が変わっても、自ら合理的配慮について伝えることができるようになります。
- ライフステージに応じた支援を切れ目なく受けることができるようになります。

合意形成の方法例

「どのような場面で？」

- 家庭訪問
- 教育相談週間(全校児童生徒対象)
- 随時教育相談(担任・児童生徒)
- 三者相談(担任・児童生徒・保護者)
- 来校時の会話

「どのような方法で？」

- 電話連絡
- 連絡ノートの活用
- 保健健康調査の活用
- 「個別の教育支援計画」の活用
- 情報共有シートの活用

本人・保護者に関わる全ての場面で合意形成の機会ですよ！

本人・保護者との合意形成 ここが大切！

- 合理的配慮の内容や本人・保護者の状況に応じて、適切なタイミングで対話を重ねましょう！
- 小学校の段階から本人が理解できる言葉や方法で伝えたり、思いを確認したりすることが、中学校、高等学校での提供の充実につながります！
- 学びやすさや必要性を感じられたかなど、本人の様子から効果をとっていきましょう！
- 定期的に話し合いながら、合理的配慮の提供内容を見直していきましょう！

本人・保護者の思いや考えを把握し、寄り添いながら丁寧に対話を積み重ねましょう。

※ 福島県特別支援教育センター発行「コーディネートハンドブック[2020年版]」、「合理的配慮の提供のために、やってみよう!ケース会議」を確認してください。

自立活動の指導のための「個別の指導計画」

自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の幼児児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して指導を行うことが基本である。(特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より)



自立活動は「個々の幼児児童生徒の実態に応じて」目標を立て、指導していくものです。自立活動の指導にあたっては、「個別の指導計画」を作成することが重要になります。「個別の指導計画」の作成にあたって、まずは、実態把握が大切になります。この実態把握に基づいて指導目標を設定し、具体的な指導方法を考えていきます。



○実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ

例：集団の中における感情や行動を自分でコントロールする力を高めるための指導

1 個々の実態を的確に把握する

- ① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等
- ・学級のルール等について、内容は理解しているものの実際の場面になると、自分がしたいことを優先してしまう場合が多い。
 - ・教科学習の理解はよく、習得も速いが、出し抜けに答えたり、友達に伝えたりしてしまう。また、テストでは解答欄を間違えるなどのうっかりミスが多い。
 - ・昆虫など小動物が好きで、校庭で見つけると捕まえてくるが、突然、友達の目の前に突き付けて驚かせる。
 - ・遊びやゲームなどを面白くする工夫やルールを提案することが得意だが、唐突にルールを変えようとする傾向がある。
 - ・約束や決まりを聞いて覚えるより、必要事項を紙面で見ながら説明を聞く方が理解しやすいようである。
 - ・突発的な発言で友達を泣かせたことを指摘されてもなかなか謝ることができないことが多いが、落ち着いてから話すと「泣かせたのは僕が悪かったかもしれない」と言う。
 - ・役割を与えられたり、取組を認められたりすると熱心に活動する。

② 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・前向きで活動的であるが、最近少しできない自分を責めるような発言が見られる。	・他者のために役立ちたい、他者と関わりたいという気持ちは強い。	・聞くより見る方が理解しやすい。	・人や物にぶつかる、道具を使用することが苦手など、意識的に身体操作をすることに困難がある。	・相手の立場を意識することが難しく、自分の興味・関心を優先してしまう。

収集した情報を〇〇年後の姿の観点から整理

- ・保護者は、衝動的な言動により、高い理解力を生かし切ることができないことや、友達との距離が離れてしまうことを心配している。(心、人)
- ・叱責や失敗体験が成功体験を上回ると、学習や生活に対する意欲や自信が低下することが考えられる。(心、人)
- ・本人の特性に応じた配慮が続けられれば、中学校に行っても本来持っている力を発揮することができるだろう。(人、環)

2 実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

- ・落ち着いた状況であれば、相手の表情や口調等から適切な判断ができることが多く、取組を認められるとさらに熱心に取り組む様子が見られる。これらのことから衝動的な言動をコントロールできたときにすぐに寝るることにより、徐々に自分の言動をコントロールできるようになることが期待できる。
- ・視覚的な情報からルールを守ることの大切さを知る。さらにルールを守ったり、衝動的な言動を減らしたりすることで楽しい活動ができる経験を多く積ませる。自分の身体をコントロールすることで気持ちを安定させる方法を学ぶなどして、衝動的な言動を自分でコントロールする力を高める。

まずは、子どもの実態について情報を収集し、具体的に記入していきます。

CHECK

収集した情報について、自立活動の6区分27項目の解説を踏まえて整理します。整理に悩む場合は、P9「自立活動の指導のための早見表【例示】」を参考にしてください。

期間を区切り、例えば、卒業までにどのような力をどこまで育むとよいのかを想定しながら整理します。

課題同士の関連を考えることで、中心的な課題となる行動の背景・要因が明らかになってきます。それが障がいによる困難さであり、改善・克服できる課題であれば、指導すべき課題となります。

実態把握

3 今、指導すべき目標

・通級による指導の場において、成功体験を実感することのできる学習環境の中で、衝動的な言動をコントロールしながら、望ましいコミュニケーションや円滑な集団参加ができる。

指導すべき課題から、本人の実態及び自立活動の指導場面によって、今、指導すべき目標を決定していきます。

4 指導目標を達成させるために必要な項目を選定（6区分27項目）

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

自立活動の内容の6区分27項目のどの項目が関連しているかチェックしていきます。チェックがつかない項目もあります。

指導内容	・小集団において、ルールを守ることや負けた時の対応方法などを身に付けるため、簡単なルールのあるゲーム等に取り組む。	・学校の中で起こる様々な場面をビデオや絵で見て、その場面を、登場人物の気持ちを考えながら演じたり、ビデオ撮影等で自分の言動を客観的に見たりしながら、適切な行動を、その理由と共に話し合う中で理解する。	・気持ちを安定させるために、身体を自分で適切にコントロールできるようにする。
場面指導	教育活動全体的時間における指導	教育活動全体的時間における指導	教育活動全体
評価			

【次年度に向けた引継ぎ】

指導内容との関連を図り、線でつなぎます。

指導内容が、一つ、二つの場合もあります。記入欄が不足する場合は追加してください。

授業時間を設定して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても自立活動と密接な関連を図る必要があります。

特別支援学校学習指導要領解説自立活動編より一部抜粋
特別支援教育センター発行コーディネートハンドブック〔2020年版〕より一部抜粋



「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」では、実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例や事例が示してあります。



さらに、特別支援教育センター発行「コーディネートハンドブック〔2020年版〕」に記入例等が詳しく掲載されています。特別支援教育センターホームページからもダウンロードできます。

自立活動の指導のための早見表【例示】



自立活動の指導においては、『関連付けて指導する』とあるけれど、どうしたらよいのかな？



コーディネートハンドブックに特別支援学級（知的障がい、情緒障がい）を想定した早見表があります。

児童生徒の実態を自立活動の指導の項目で整理、関連付けて指導していくための参考資料です。



気になる行動(例)では、他の項目と密接な関連がある場合が多く、重複する部分があります。

あくまでも例示です。実態把握や項目整理で活用し、課題同士の関連、指導すべき内容や目標を「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 自立活動編」で示されている手順で決定しましょう。

	気になる行動 (例)	関連項目	指導の内容 (例)		気になる行動 (例)	関連項目	指導の内容 (例)
健康の保持	<input type="checkbox"/> 昼夜逆転生活・睡眠の欠乏または過眠。 <input type="checkbox"/> 偏食、少食・過食がある。 <input type="checkbox"/> 常に長袖または半袖。 <input type="checkbox"/> 不潔な状態（爪、歯、体、髪の毛等）。	生活のリズムや生活習慣の形成	<input type="checkbox"/> 規則正しい生活・睡眠のリズム <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> 衣服の調節 <input type="checkbox"/> 清潔	環境の把握	<input type="checkbox"/> 視力が悪いのに眼鏡をかけない。 <input type="checkbox"/> 支援機器（補聴器等）の管理ができない。 <input type="checkbox"/> ICT等の活用に不慣れ。	感覚の補助代行及び代行手段の活用に関すること	<input type="checkbox"/> 感覚の補助・代行グッズの活用 <input type="checkbox"/> 操作方法の習得
	<input type="checkbox"/> 自分の病気の理解が難しい。 <input type="checkbox"/> ストレスの要因の理解、対応が難しい。 <input type="checkbox"/> 服薬している薬の理解と管理が難しい。	病気の状態の理解と生活管理	<input type="checkbox"/> 自分の病気の理解 <input type="checkbox"/> ストレスへの対応や発散方法 <input type="checkbox"/> 体調管理		<input type="checkbox"/> 複雑なルールがある活動が苦手。 <input type="checkbox"/> 場面や状況から、やるべきことを見出すことが難しい（整理整頓、掃除等も）。 <input type="checkbox"/> 情報をまとめて判断するのが苦手。	感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動	<input type="checkbox"/> 情報を収集していく力 <input type="checkbox"/> 場面や状況を把握していく力 <input type="checkbox"/> 的確な判断や行動
	<input type="checkbox"/> 怪我の痛みが分からない時がある。 <input type="checkbox"/> 自分の身体に関心が無い。	身体各部の状態の理解と養護	<input type="checkbox"/> 身体各部の状態の理解 <input type="checkbox"/> 患部の保護 <input type="checkbox"/> 身体を養護する力		<input type="checkbox"/> 抽象的概念の理解が難しい。 <input type="checkbox"/> 口頭指示が通りにくく、具体物がないと理解が難しい。 <input type="checkbox"/> 場面に合わない突拍子もない行動をとる。	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	<input type="checkbox"/> 概念の形成（ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等）
	<input type="checkbox"/> 失敗から、自分を否定的に捉えてしまう。 <input type="checkbox"/> 大きな音がすると不安定になる。	障がいの特性の理解と生活環境調整	<input type="checkbox"/> 自己の障がいの理解 <input type="checkbox"/> 自ら生活環境を整える力		<input type="checkbox"/> 常に、体が動く。椅子に座れない。 <input type="checkbox"/> 起立の姿勢維持が難しい。 <input type="checkbox"/> 運動が苦手（走る、投げる、取る等）。 <input type="checkbox"/> 身体に麻痺がある。	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	<input type="checkbox"/> 姿勢保持 <input type="checkbox"/> 姿勢保持のための環境づくり <input type="checkbox"/> 運動 <input type="checkbox"/> 関節の拘縮や変形の予防
心理的な安定	<input type="checkbox"/> 常に、イライラ、落ち着きがない。 <input type="checkbox"/> 状況が変化する不安になる。 <input type="checkbox"/> 集団行動が苦手、参加できない。	情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> 不安要因の解明と適切な対応 <input type="checkbox"/> 興奮要因の解明と適切な対応	身体の動き	<input type="checkbox"/> 必要な補助用具の活用に不慣れ。	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	<input type="checkbox"/> 補助用具の適切な選定
	<input type="checkbox"/> 場面や状況の理解が難しい。 <input type="checkbox"/> 急な予定やルール変更の受け入れが難しい。 <input type="checkbox"/> 順番や勝敗、やり方で、パニックになる。	状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> 場面・状況の理解 <input type="checkbox"/> 場面・状況変化への適切な対応		<input type="checkbox"/> 靴ひも結び、ボタン等ができない。 <input type="checkbox"/> はさみ、カッター、定規、分度器、消しゴム等の扱いが不器用。	日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> 身辺処理を身に付ける <input type="checkbox"/> 学習用具の扱い方 <input type="checkbox"/> 不器用さを改善する用具の扱い方
	<input type="checkbox"/> 興味・関心の偏り。 <input type="checkbox"/> 「どうせ、、、」が口癖。 <input type="checkbox"/> 夢中になることが少ない。	改善・克服する意欲に関する事 *一部略	<input type="checkbox"/> 障がいの状態の理解と受容 <input type="checkbox"/> 障がいの改善・克服の意欲向上 <input type="checkbox"/> 生きがい探し		<input type="checkbox"/> 身体的機能上の課題により、一人で移動することができない。 <input type="checkbox"/> 作業活動に取り組むことが苦手。（制作、調理等での手先を使った活動） <input type="checkbox"/> すぐに飽きる。	身体移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> 移動能力の向上
人間関係の形成	<input type="checkbox"/> 教師や友達に不信感がある態度。 <input type="checkbox"/> 他者に関心が無い。共同での活動が難しい。 <input type="checkbox"/> 双方向の会話、やりとりが苦手。	他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> 人に対する信頼感 <input type="checkbox"/> 他者の存在の気づき <input type="checkbox"/> 他者とのやりとり（受容と対応）	コミュニケーション	<input type="checkbox"/> 人に伝えようとする意識が少ない。 <input type="checkbox"/> 教師や友達に、あまり関心が無い。 <input type="checkbox"/> 身振り等の意味の理解や活用が難しい。	コミュニケーションの基礎的能力に関する事	<input type="checkbox"/> 伝えたい気持ちの育成 <input type="checkbox"/> 伝えたい内容の拡充 <input type="checkbox"/> 伝えるための手段の拡充
	<input type="checkbox"/> 教師や友達の言葉の意味や感情の理解が難しい（冗談やことわざも）。 <input type="checkbox"/> 表情や声の調子から相手の感情を理解するのが難しい。	他者の意図や感情に関する事	<input type="checkbox"/> 他者の意図や感情の理解 <input type="checkbox"/> 言葉（ことわざ、冗談等）の理解 <input type="checkbox"/> 身振りや表現の理解		<input type="checkbox"/> 会話での語彙が少ない。 <input type="checkbox"/> 相手の話を受け入れることが難しい。 <input type="checkbox"/> 考えを整理して話すのが難しい。	言語の受容と表出に関する事	<input type="checkbox"/> 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて伝える <input type="checkbox"/> 相手の意図を受け止め、自分の考えを伝える
	<input type="checkbox"/> 何度も同じ注意を受ける。 <input type="checkbox"/> 衝動的な行動が抑えられない。 <input type="checkbox"/> 気持ちが急いで、失敗することある。	自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> 自分の得意、不得意なこと理解 <input type="checkbox"/> 自己理解から、行動を調整していく <input type="checkbox"/> 集団行動の中で状況に応じた行動		<input type="checkbox"/> 生活上使う言葉や語彙の理解不足（物の名前、形容表現、抽象表現）。 <input type="checkbox"/> 文章の読解力が乏しい。 <input type="checkbox"/> 助詞等の理解不足。	言語の形成と活用に関する事	<input type="checkbox"/> 語彙の習得 <input type="checkbox"/> 概念の形成 <input type="checkbox"/> 文法の理解
環境の把握	<input type="checkbox"/> 物を見る時、顔や見る物をかたむける。 <input type="checkbox"/> 聞く力が弱い。 <input type="checkbox"/> 記憶力が弱い。	保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> 視覚、聴覚、触覚などの使える感覚を最大限に活用する力	ICT	<input type="checkbox"/> ICT、文字ボード等を活用したコミュニケーション手段に不慣れ。	コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	<input type="checkbox"/> コンピュータ等の電子機器の選択活用
	<input type="checkbox"/> 書字、音読、図形等が苦手。 <input type="checkbox"/> 指示を聞いて、自ら考え、判断して行動することが難しい。 <input type="checkbox"/> 音や感触などの過敏からパニックになる。	感覚や認知の特性に関する事	<input type="checkbox"/> 感覚情報の適切な処理・対応 <input type="checkbox"/> 聞いたこと、見たこと、考えたことを記憶、判断、決定等の行動化 <input type="checkbox"/> 過敏要因に対する対応		<input type="checkbox"/> 話に割り込む、場違いな質問をする。 <input type="checkbox"/> 字義通りに受け取る。 <input type="checkbox"/> 場面や状況にあったやりとりが苦手（話し方、メモを取る、うなずく）。	状況に応じたコミュニケーションに関する事	<input type="checkbox"/> 場面や状況に応じたコミュニケーションスキル（聞き方・メモの取り方・質問の仕方・報告の仕方・話し方等）

自立活動の指導の実際

○個別指導の授業

小学校 通級による指導

<児童の実態 (A 児 2 年) >

行事に参加することが苦手で、学年の列に並ぶことや皆と一緒に活動することが難しいことがある。授業中は工作やお絵描きをしていることもあるが、興味のある課題や話題では発言をすることができる。

<導き出された具体的な指導内容>

- ・場面や状況を理解し「見通しをもつ」ことができる。【心 (2)】
- ・自分の得意・興味を生かしながら「活動に参加する」ことができる。【人 (3)】

関連する【区分 (項目)】を示しています。複数の【区分 (項目)】になることもあります。

<題材名> 「作戦タイム」

得意なところを生かし、伸ばしていくことで、遅れている側面の発達も促していく指導の工夫が大切です。

<本時の目標>

話したりかいたりしながら困ったときの状況を整理し、授業に参加するための作戦を立てることができる。

児童生徒が目標を自覚し、意欲的に取り組んだことが成功に結び付いたということを実感できるようにしましょう。

<主な学習過程>

- 1 自分の行動や気持ちを振り返る。
 - 授業で「どうしよう」と困ったり、考えたりしたことを思い出す。
- 2 状況や気持ちを整理する。
 - (1) 文字やイラストでかき出して状況を整理する。
 - (2) マイナスの気持ち以外にも目を向ける。
- 3 作戦を決定する。「どうする A さん」
 - かき進めながらどうしたらよいか考えて整理し、解決に向けてまとめる。



話したりかいたりしながら整理

○集団指導の授業 (効果的である場合に実施)

小学校 自閉症・情緒障がい特別支援学級

<題材名> 「自己紹介をしよう」

一人一人の目標及び目標達成に必要な【区分 (項目)】が異なるため、学級全体で共通の題材の目標、本時の目標は不要です。

<児童の実態と個別目標>

児童名	児童の実態	本時の目標
B 児 3 年	・書くことが多くなると集中が途切れがちだが、自分が思ったことを話したり、最後まで友達の話の聞いたりすることができる。 ・学級の中では、友達と仲良く過ごすことができるが、交流学級では、自分の思いを周りに伝えられないことが多い。	○自己紹介の仕方を整理し、メモを見ながら話することができる。 ○相手の顔を見て、うなずきながら話を聞くことができる。
C 児 3 年	・意欲的に学習に取り組むが、話を聞き漏らして同じ質問を繰り返すことが多い。感情が高まると、周りの状況を考えずに大きな声を出す。 ・相手の話を最後まで聞かずに、思いついたことをすぐに口に出してしまう。	○気持ちを落ち着けて、適度な声の大きさで自己紹介をすることができる。 ○相手の話を最後まで聞くことができる。
D 児 4 年	・真面目な性格で、自分から話すことが少なく、友達に対して言いたいことが言えずにストレスを溜めやすい。聴覚過敏があり、静かな環境を好む。 ・集団の中でも、周りを見て行動することができる。	○自己紹介のポイントを発表することができる。 ○友達のできているところや、よいところを見つけることができる。



役割演技の動画を視聴



ポイントの整理 (視覚化)

個別の指導計画で導き出された目標や指導内容を根拠として、個別の目標を設定します。同じ題材でも、指導目標や指導内容は一人一人異なります。

<主な学習過程>

- 1 自己紹介のポイントを話し合う。
 - (1) 前時に学習した話するときのポイントを確認する。
 - (2) 役割演技 (動画) を見て、直した方がよいところを発表する。
 - (3) 聞くときのポイントを整理する。
- 2 自己紹介をしよう。(実践タイム)

指導の段階の細分化、興味を引くような教材・教具の準備、分かる・できる環境づくりにより、意欲的に取り組むことができるようにしましょう。

わずかな進歩も積極的に価値付け、振り返りに生かしていくことで、児童生徒が自分のがんばりや成長を自覚できるようにしましょう。

「交流及び共同学習」に取り組む際に



特別支援学級と通常の学級での「交流及び共同学習」が、うまくいかないのですが…

特別支援教育センターのコーディネーターハンドブックに【交流及び共同学習連携シート】の活用について提案しています。



【交流及び共同学習連携シート】例

令和〇〇年度 小学4年生										
交流予定について (○交流できる △一部交流できる ・今後交流を進めていきたい)										
氏名 / 交流教科等	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	総合	特活
福島太郎		○		○	△	○	○	△	○	△

交流及び共同学習における本人の目標

◎身近な教師や友達に自分の思いを伝えながら、一緒に活動したり、自分でできることを増やしたりすることで、集団の中でも自分の力を発揮することができる。

☆児童生徒の実態と配慮事項について (社会、理科、音楽、体育、学活の例)

教科等	○学習における実感 ●予想される困難さ ◎配慮や支援
社会	○歴史については、とても興味を示し、意欲的に学習に取り組むことができる。 ●指示を受けて資料集などから必要な部分を探すことに時間がかかる。 ◎今見るべき場所を、個別に指さしもしくは隣の席の友達から教えてもらうことができる。
理科	○実験にとっても興味があり、意欲的に学習に取り組む。 ●実験が楽しすぎず、説明をよく聞かなかったり、理解できない時がある。 ◎どんな実験をするか、もう一度、本人と確認すると確実に取り組むことができる。
音楽	○歌を歌うことが好きで、習った歌やアニメなどの歌やフレーズを口ずさむ。 ●鍵盤ハーモニカは、不器用なために、一斉指導のペースでは難しい時がある。 ◎鍵盤ハーモニカについては、確実な学習の定着を図るために、状況に応じて○学級で個別に指導し、確実な定着と本人の“できる”気持ちを賞む。発表等の時に交流する。
体育	○体を動かすことは好きで活動が分かれば楽しく活動することができる。 ●今までやったことがない活動に対しては取り組もうとしないことがある。 ◎新しい活動の場合は、事前に教えてもらうことで、○学級で練習や見通しがもてるように指導する。
特活	○お楽しみ会や行事関係は一緒に活動することを楽しみにしている。 ●気持ちが盛り上がりすぎて、約束やルールを破ることがある。 ◎自立活動の時間で、対人関係のルールを守りながら楽しく活動できるように指導している。

通常の学級で学習する時の特別支援学級の児童生徒の実態、学習上の困難さが分かるようになってきているのですね。児童生徒の目標や手立て、かわり方を共有することが大切なことが分かりました。



シート1枚になっていると分かりやすいです。私(通常学級担任)も見通しをもって、安心して授業の中で配慮や支援をすることができるようになります。



支援員・介助員さんとの連携についても書いてあると、さらに安心できます。



「交流及び共同学習」に取り組む際に

【交流及び共同学習の目的・意義】(平成31年3月 文部科学省「交流及び共同学習ガイド」より抜粋)

障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動する交流及び共同学習は、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となるなど、大きな意義を有するものです。

また、このような交流及び共同学習は、学校卒業後においても、障害のある子供にとっては、様々な人々と共に助け合って生きていく力となり、積極的な社会参加につながるとともに、障害のない子供にとっては、障害のある人に自然に言葉をかけて手助けをしたり、積極的に支援を行ったりする行動や、人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に支え合う意識の醸成につながると考えます。

小・中学校等や特別支援学校の学習指導要領等においては、交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすることとされています。

交流及び共同学習は、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があり、この二つの側面を分かちがたいものとして捉え、推進していく必要があります。

「交流及び共同学習」とは、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があります。教科のねらいを明確にすることも大切です。



「障害のある子供の教育支援の手引」

障害のある子供の就学相談や就学先の検討等の支援について、子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた適切な教育を提供するため、「教育支援資料」（平成25年10月文部科学省）がありましたが、障害のある子供の就学先となる学校（小中学校等、特別支援学校）や学びの場（通常の学級・通級による指導・特別支援学級）の適切な選択に資するよう改訂を行うとともに、就学に係る一連のプロセスとそれを構成する一つ一つの取組の趣旨を、就学に関わる関係者の全てに理解してほしいことから、「障害のある子供の教育支援の手引」（令和3年6月 文部科学省）と名称が改定されました。



この新たな手引では、障害のある子供の「教育的ニーズ」を整理するための考え方や就学先の学校や学びの場を判断する際に重視すべき事項等の記載を充実するなど、障害のある子供やその保護者、市区町村教育委員会を始め、多様な関係者が多角的、客観的に参画しながら就学を始めとする必要な支援を行う際の基本的な考え方が記載されています。

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY JAPAN

検索 読み込み検索 キー サイト内検索

サイトマップ English 文字サイズの変更 小 中 大

会見・報告・お知らせ 政策・審議会 白書・統計・出版物 申請・手続き 文部科学省の

トップ > 教育 > 特別支援教育 > 特別支援教育について > 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

● 障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

手引本編

- 第1・2編 (PDF:2.3MB)
- 第3編 (PDF:6.3MB)

別冊

- 【別冊】小中学校等における医療的ケア実施支援資料 (PDF:821KB)

参考資料

新着情報等最新
1. 特別支援教育改正
2. 特別支援教育
3. 特別支援教育推進要綱等
4. 障害に配慮
5. 発達障害について

「障害のある子供の教育支援の手引」の掲載内容

第1編「障害のある子供の教育支援の基本的な考え方」

第2編「就学に関する事前の相談・支援、就学決定、就学先変更のモデルプロセス

第1章 就学先決定等の仕組みに関する基本的な考え方

第2章 就学に向けた様々な事前の準備を支援するための活動

第3章 法令に基づく就学先の具体的な検討と決定プロセス

第4章 就学後の学びの場の柔軟な見直しとそのプロセス

第5章 適切な支援を行うに当たって期待されるネットワーク構築

第6章 就学に関わる関係者に求められるもの～相談担当者の心構えと求められる専門性～

教育的ニーズの把握から始めましょう。



第3編「障害の状態等に応じた教育的対応」

I 視覚障害 II 聴覚障害 III 知的障害 IV 肢体不自由 V 病弱・身体虚弱

IV 言語障害 VII 自閉症 VIII 情緒障害 IX 学習障害 X 注意欠陥多動性障害

障害のある子供の教育支援の手引
～子供たち一人一人の教育的ニーズを
踏まえた学びの充実に向けて～



小・中学校、高等学校における インクルーシブ教育システム推進のための コーディネートハンドブック



全教職員による支援体制の充実に向けて、福島県特別支援教育センターのWebページを活用しましょう！



各学校の実情に向き合い、「読みやすい」「実施しやすい」をコンセプトに作成されています。

見たい内容のタイトルをクリックするだけで、必要な情報が手に入り、すぐに活用できるアイデアも満載です。

掲載情報

法令・制度等必要な情報を選んで入手！

校内の理解啓発授業に生かせる情報も満載！

「コーディネートハンドブックの活用にあたって」

知りたいこと！の検索

- 「インクル？」「通級？」よく耳にするけど、実際は…分からない言葉？ 学びの場？
→ 第I章「みんなで共生社会を目指すために」
【共生社会（インクルーシブ教育システム）の推進の考え方】【通級】【特別支援学校】【特別支援学校】等
- みんなが認め合う学校にするには？ 校内の支援体制って具体的に？
→ 第II章「インクルーシブ教育システム推進のために」
【多様なニーズに対応した学校・授業】【実践例】【具体的な教育支援体制】【1人1人の児童生徒】のための校内支援シート】等
- 気になる児童生徒にどう支援すればいいの？
→ 第III章「気になる児童生徒への支援や指導の充実のために」
【障がいのある児童生徒などへの各教科の配慮】【学習困難について】【個別の教育支援計画】【個別の指導計画】等
- 保護者、関係機関との連携、具体的には？連携先の情報は？
→ 第IV章「校外の機関との連携のために」
【保護者との連携】【IC・SSNとの連携】【関係機関との連携】【連携の推進】【教育関係者向け】【連携関係機関】等
- 他の学校の取り組みは？何をやっているの？
→ 第V章「具体的な実践から学ぶために」
【小・中学校、高等学校の具体的な実践】

特別支援教育研修体系表に基づく 研修パッケージ



研修動画や配付資料（PDF版）、研修の手引がそろっているので、校内研修の運営も安心ですね。

特別支援教育について「何から学べばよいか知りたい」「効果的に学びたい」「気軽に学べる機会がほしい」という声に応えた研修教材です。

YouTubeが見られる機器とモニターがあれば、どこでも研修が実施できます。



【研修パッケージ】 気付くステップ～子ども理解～

研修動画	手引・スライド	タイトル	パッケージ概要
	スライド04手引1104新着シート.pdf	【子どもを理解するために大切なこと】 『背景要因を探る！氷山モデルによる子ども理解』	行動の背景・要因を把握することで、行動の理由を理解する。
	01スライド(発達特性).pdf 02手引(発達特性).pdf 03発達特性シート(発達特性).pdf	【子どもを理解するために大切なこと】 『発達・支援を考えるための発達特性と学習環境の整地』	『発達特性』や『学習環境の影響』などを、さらに深く子どもの実態を把握するポイントについて理解することができる。
	スライドS05手引1105	【子どもを理解するために大切なこと】 『ある行動の成立に必要な力を考えよう！』	行動の流れ(機能や順序)を分析することで、必要な力を整理する。

氷山モデルによる行動理解

福島県特別支援教育センター

この研修のテーマは氷山モデルによる行動理解です。よろしくお願ひします。

特別支援教育の専門性向上に向けた研修の手引

研修テーマ	氷山モデルによる行動理解
研修のねらい	行動の背景・要因を把握することで、行動の理由を理解する。 【キーワード】 氷山モデル、発達・要因、行動の理由
期待される効果	・学校生活の様々な場面での子どもの行動から、「ではなぜなのか」と背景・要因を把握しようとする。 ・どのような背景・要因が行動・支援に立立つかを理解し、適切な情報共有等に生かそうとする。
進め方の例と留意点	研修にかかる時間（30～45分） 1 はじめの挨拶、動画の視聴 この研修は、通常の学習環境を基盤として先生方が理解のものです。これから動画を視聴するので、「子どもを理解するために必要な考え方・伝え方」を把握する時間に入ります。「自分が入ってきた子どもにも当てはまるのでは」と実際の子どもを思い浮かべながら視聴すること、より効果的な研修になると思います。 動画視聴後、その場で研修を行いますので、筆記用具を準備しておいてください。では始めます。 ※2 冒頭以上の方には「動画の後にある挨拶を先に入れているが確認しながら」「自分が理解できるか確認しながら」視聴してほしいと伝え、さらに学習効果が高まることを期待されます。

2 質疑（質疑5分～8分30秒、質疑18分～10分、12分～13分15秒）

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

国立特別支援教育総合研究所は、我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンターとして、インクルーシブ教育システムの構築及び障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に寄与するため、国の政策課題や教育現場等の喫緊の課題等に対応した研究活動を核として、研修事業、情報収集・発信、理解啓発活動等を一体的に取り組んでいます。

合理的配慮の実践

1 インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）

インクルーシブ教育システムデータベースは、文部科学省のモデル事業において取り組まれた「合理的配慮」の実践事例について掲載するため、平成26年度に開設されました。インクルDBを活用した研修例や、交流及び共同学習実践事例集など、参考になる事例が更新されています。

「合理的配慮」実践事例データベース<令和6年2月1日現在>

・実践事例データベースⅠ 512件公開 ・実践事例データベースⅡ 78件公開



2 特別支援教育教材ポータルサイト（支援教材ポータル）

特別支援教育教材ポータルサイトは、大学・高等専門学校・教育委員会・民間団体等との連携協力により、障がいの状態や特性等に応じた教材、支援機器等活用の様々な取組の情報などを集約管理・データベース化し、ナショナルセンターとしての特別支援教育教材ポータルサイトを構築し、様々な利用者、関係者への情報共有、提供を行うとともに、その普及活動に取り組むために開設されたWebサイトです。



3 NISE 学びラボ

- ・ 障がいのある児童生徒等の教育に携わる教職員の資質能力向上を図る主体的な取組を支援するため、インターネットによる講義配信をしています。
- ・ パソコンやタブレット端末、スマートフォン等で使用できます。
- ・ 1つのコンテンツは、おおよそ15分～30分程度の講義です。
- ・ 配信されるコンテンツは、随時更新されています。
- ・ 利用には利用者登録が必要です。

	実施状況 未実施 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
	実施状況 未実施 インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（2）特別支援教育の理念と基本的な考え方
	実施状況 未実施 多様な学びの場（2）小学校・中学校等①
	実施状況 未実施 多様な学びの場（2）小学校・中学校等②
	実施状況 未実施 特別支援教育コーディネーター―役割と活動を中心に―
	実施状況 未実施 個別の教育支援計画と個別の指導計画① 学習指導要領上の位置付けと役割

※研修プログラムの一部抜粋

4 発達障害教育推進センター



発達障害教育推進センターは、発達障害のある子どもの教育の推進・充実に向けて、発達障害にかかわる教員及び保護者をはじめとする関係者への支援を図り、さらに広く国民の理解を得るために、Web サイト等による情報提供や理解啓発、調査研究活動を行うことを目的としています。

- ・ 子どものつまずきを「学習面」「行動面」「社会性」の側面からQ & Aで説明しています。
- ・ 発達障がい等の特性を踏まえ、子どもを理解して指導・支援する方法を紹介しています。

5 発達障害ナビポータル



厚生労働省と文部科学省の協力の下、国立障害者リハビリテーションセンター（発達障害情報・支援センター）と国立特別支援教育総合研究所（発達障害教育推進センター）の両センターが共同で運用する発達障害に関する情報に特化したポータルサイトです。

- ・ 発達障害のある方の特性に応じた、教育での対応や制度などを支援者向けに紹介しています。
- ・ 発達障害のある方への支援に関する研修コンテンツ集を掲載しています。

特別な支援を必要とする子どもに関する進学時の引継ぎについて（例）

本例は、ある中学校区で行われている引継ぎの実践、関係法令、文献等を基に作成しました。

1 引継ぎのねらい

- (1) 中学校進学に際し、本人・保護者の理解と承諾の得られた特別な支援を必要とする児童について、小学校から中学校に必要な情報を引き継ぐことにより、切れ目のない学びと支援を提供できるようにする。
- (2) 本人、保護者の中学校における生活に対しての不安等を丁寧に聞き取り、必要に応じて学校見学や中学校での教育相談を実施し、見通しをもち、安心して中学校進学を迎えられるようにする。

2 引継ぎに関する留意点

- (1) 小学校及び中学校の校長は相互に連携を図り、特別な支援を必要とする児童に関する引継ぎを確実、丁寧に行えるよう年間計画に位置付ける。
- (2) 校長の指示の下、小学校及び中学校の特別支援教育コーディネーター(Co)を中心に準備し、実施する。
- (3) 特別支援学級及び通級による指導教室に在籍する児童に関しては、本人、保護者の理解と承諾の下、引継ぎを行う。引継ぎには、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」、記録等を活用するよう努める。
- (4) 通常の学級に在籍する児童で、特別な支援を必要とする児童に関しては、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の有無に関わらず、本人、保護者の理解と承諾の下、引継ぎを行う。
- (5) スクールカウンセラー(SC)を適宜活用する。
- (6) 引継ぎに際して、保護者の同席などについても、臨機に対応する。

3 引継ぎ日程及び役割等について・・・別紙(次項)

<関係法令・通知等>

- 学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について
(平成 30 年 8 月 27 日付け 30 文科第 756 号文部科学省初等中等教育局長通知)
- 教育と福祉の一層の連携等の推進について
(平成 30 年 5 月 24 日付け 30 文科初第 357 号・障発 0524 第 2 号文部科学省初等中等教育課長及び厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長連名通知)

<引用・参考文献等>

- ※ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編
- ※ 中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編
- ※ 発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン
(平成 29 年 3 月 文部科学省)

引継ぎ日程及び役割等について

時 期	○小学校が行うこと	■中学校が行うこと
1 学期初 夏季休業 2 学期初	<p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・承諾・評価・見直し</p> <p>○日程、内容等の打合せ</p> <p>6年生ケース会議</p> <p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等を行う</p> <p>進学に向けての教育相談</p> <p>○個別懇談週間、普段の懇談等を活用</p> <p>○本人・保護者の不安等の確認</p> <p>○中学校参観・中学校での教育相談希望確認</p> <p>本人・保護者</p> <p>○場合によっては担任等同行</p> <p>6年生ケース会議</p>	<p>■日程、内容等の打合せ</p> <p>Co・SC等の参加</p> <p>■児童の実態を把握する</p> <p>■中学校での情報共有</p> <p>小学校での授業参観</p> <p>■授業を参観しての児童の見取り</p> <p>■小学校との情報共有</p> <p>■Co・SC等による</p> <p>■中学校での情報共有</p> <p>学校見学 教育相談</p>
3 学期	<p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の評価・見直し</p> <p>※合理的配慮の確認を確実に行う</p> <p>○引継ぎ資料の作成</p> <p>担任・Co 参加</p>	<p>引継ぎ会</p>
3 月	<p>○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」、記録等による引継ぎ</p>	<p>※新しい学びの場で提供可能な合理的配慮の再検討・引継ぎ</p> <p>校内での情報共有</p> <p>■ケース会議等に参加を依頼するなど、必要に応じて小学校と連携</p>
4 月	<p>○中学校からの依頼を受け、ケース会議等に参加</p>	

特別な支援を必要とする子どもに関する幼・小の引継ぎについて(例)

本例は、ある小学校区で行われている引継ぎの実践を基に作成しました。

時 期	○小学校が行うこと ・具体的な内容
9月	<p>保護者からの就学時健康診断における配慮の申し出</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村教育委員会の就学に関わる早期教育相談担当者との情報共有 ○幼児の教育・福祉等関係機関相談担当者との情報共有(保護者の同意を得て実施) ○幼児・保護者との相談(1回目 保護者の希望によるもの)、学校見学 ・就学時健康診断の流れと対応について
10月	<p>就学時健康診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者からの聞き取り ○幼児への配慮 ・教員の付き添い ・クールダウン部屋の確保 ○幼稚園等と、幼児の特性や生活状況について情報共有(保護者の同意を得て実施) <p>就学に関する情報の提供や本人・保護者の意思の確認を、丁寧に行いましょう。子どもの長所を見取ったり、保護者の努力を認めたりしながら保護者の不安を和らげ、信頼関係を築いていきましょう。</p> 
11月	<p>学びの場の判断についての合意形成</p> <p>※市町村教育委員会または校長と保護者との面談</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて再度、相談や学校見学を実施
2月	<p>新入児童保護者説明会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児・保護者との相談(2回目 学校で計画・実施しているもの) ・現在の状況の確認 ・今後の見通しについて ・相談支援ファイル等の準備について ・引継ぎの同意について <p>相談支援ファイル等や「個別の教育支援計画」については、保護者や幼稚園等からの提出を待つのではなく、早い段階で積極的に働きかけて引き継ぎ、活用しましょう。</p> 
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○入学式リハーサル(幼児・保護者の参加) ・入学式の流れを提示 ・どこまで参加できるかを相談 ・途中で抜けることになった場合のルートを含め、実際に歩いて練習 <p>入学式</p> <ul style="list-style-type: none"> ○相談支援ファイル等の引継ぎ(保護者からの提出)
4月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園等の担任と引継ぎ(対面) ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の引継ぎ(保護者の同意を得て実施) ○特別支援教育判断対象児に対するフォローアップ訪問の受入れ(授業参観)

見え方で心配なことはありませんか？

見えにくさのある子どもには、次のような様子が見られることがあります。

- 本を読んだり字を書いたりするとき、極端に目を近付けて見る
- 顔を傾けたり斜めにしたりして見る
- 人と向かい合うときに視線が合わない
- 不慣れな場所で、物にぶつかったり段差でつまずいたりする
- 明るいところで極端にまぶしがる
- 暗がりで行動がゆっくりになる

生まれてからずっと見えにくい状態が続いていると、自分自身で見えにくさに気付くことができません。そのため本人から見えにくさを訴えることはなく、周りも本人の見えにくさに気付かないことがあります。



見えにくさがある場合、環境を整えたり便利な補助具（タブレット、拡大読書器等）を活用したりすることで学習のしやすさが向上します。

例えば・・・

- 教材を工夫する ⇒ 文字の大きさやフォントを適切なものに変える
- 教室環境を整える ⇒ 見え方の特性に合わせて照度を調整する
- 指導法を工夫する ⇒ 指示語を使わず具体的な言葉で伝える 等

見えにくさのあるお子さんは一人一人見え方が違います。そこで、まずはお子さんの見え方を把握し、見え方に合わせた配慮を考えることが大切です。また、見えにくさからくる困難さを子どもが自ら解決したり、学年や発達段階に応じて必要な知識・技能を身に付けたりすることができるよう指導していくことも大切です。

【気になることがありましたら お気軽にご相談ください】

地域支援センター 目の相談室 のびのび



教育相談専用 TEL 080-7347-3908 mail shien-gr@fcs.ed.jp

(県立視覚支援学校内 福島市森合町6番34号 TEL024-534-2574)

- <対象> 県内全域の0歳から成人までの見えにくさのある方、関係者、教員等
- <内容> 電話相談 来校相談
- 学校等への訪問相談 オンライン相談
- 教員、関係者の方を対象とした研修支援
- 出前授業（視覚障がい疑似体験、ユニバーサルデザイン等）

きこえで心配なことはありませんか？

問題ないと思われていても、実は困っているかもしれません

後ろから声をかけると気付かないことが多いな…

みんなで話している時や離れた場所だと聞き返が多いな…

補聴器や人工内耳を着けていても、聞き取りにくいことがあるな。



聞き逃しや聞き間違いが多くて、学習内容についていけなくなってきたな。

聞き取りやすくする工夫・学びやすくする工夫があります！



- ・聞きなれない言葉は、繰り返す！板書する！
- ・注目を引き付けて、静かになったら目を見て話す！
- ・自然な話し方でゆっくり、はっきり話す！
- ・聞き取りやすい席！
- ・補聴援助システムの活用！

「きこえ」への配慮は、みんなの「分かった！」を支える土台となります。「きこえ」の工夫はみんなの学びやすさに！一緒に考えていきましょう。

0歳からのきこえやことばの相談・支援を行っています。

地域支援センター

みみらんど 福島



きこえやことばで気になることがある方、お気軽にご連絡ください。
TEL・FAX 024-531-5013 (福島県立聴覚支援学校福島校内)

聞こえ方は一人一人違います。普段の生活の中で気になることや配慮事項、指導・支援の方法、教材・教具に関する情報等、どんなことでもご相談ください！

<支援内容>

<みみらんどふくしま ホームページ>

- 電話相談 来校相談 乳幼児教室「みみちゃん教室」
- 学校等への訪問相談 教員、関係者を対象とした研修支援
- 出前授業(難聴疑似体験、補聴器体験等)



子育てや教育で困っていることはありませんか？

行動面

- 落ち着きがなく、座ってられない
- 集団行動が苦手
- 友達とうまくかかわることができない



生活面

- 予定の変更が苦手
- よく物をなくす
- 片付けが苦手



学習面

- 文章問題が解けない
- 計算はできるが、図形が苦手
- 音読が苦手
- 漢字が覚えられない



就学・将来

- 学校でうまくやれるかどうか不安
- 特別支援学校について知りたい
- 就学・進路について、悩んでいる



例えば・・・○落ち着きがなく、座ってられないのはなぜ？



お子さんがどんな苦手なところをもっているのか、どんなことに困っているのかを知り、適切な対応をすることで、よりよい成長につなげることができます。少しでも気になる場合は、自分ひとりで解決しようとせず、まずは気軽に話してみませんか？

<p>福島県立大笹生支援学校 地域支援センター</p> <p>ささっこ</p>  <p>○代表電話 024-558-8710 ○直通電話 080-4959-7210 福島市大笹生字組板山182番地の2 ホームページ https://ohzasou-sh.fcs.ed.jp</p> 	<p>福島県立だて支援学校 地域支援センター</p> <p>だてっこ</p>  <p>○代表電話 024-572-6676 ○直通電話 080-7485-2409 伊達市保原町大泉字大館78番 ホームページ https://date-sh.fcs.ed.jp</p> 	<p>福島県立あだち支援学校 地域支援センター</p> <p>あだちのそら</p>  <p>○代表電話 0243-24-8415 ○直通電話 080-9185-1838 二本松市安達ヶ原一丁目55番地1 ホームページ https://adachi-sh.fcs.ed.jp</p> 
---	--	--

<内容> □電話相談 □来校相談 □保育施設、学校等への出かける相談 □教員、関係者を対象とした研修支援

入院中も学びつづけるために

須賀川支援学校医大校は、病弱の子どもたちの学校です。
小・中学校と連携し、治療しながら学習することができます

〈入院中〉体調に合わせて院内にある学校に登校したり、ベッドサイドでの学習を行ったりします。

小・中学校の先生方とこんなことを確認しています。

進度や学習状況、使用教材の確認
(ドリルや図画工作の教材など)

☆夏休みの宿題は？
☆テストの範囲は？



どんな交流をする？
(手紙、オンライン交流など)

☆学級だよりのやりとりはする？
☆一時退院の時に先生と会えるかな？

〈退院が近くなった時〉復学支援会議を行います。

本人、保護者、小・中学校の先生、医療関係者が集まって話し合います。

病気のこと
(今後の治療、服薬など)

学校生活で気をつけること
(登校時間、給食、感染予防
授業・行事の参加の仕方など)



友達への説明の仕方

学校で過ごす時間の調整

医大校での学習の様子

入院中の子どもたちは、病気への不安や家族や友達と離れてしまう寂しさ、「勉強がおくれてしまうのではないか。」など様々なストレスを抱えています。

病院の中で、「学びや成長を保障しながら、退院後の生活を視野に入れたかかわりをする学校」と、病院の外で、「目標となり、帰りを待ち、迎えてくれるメッセージを送る学校」、両方の学校が大きな役割を担っています。

福島県立医科大学附属病院に通院・入院している方を対象に相談・支援を行っています。

地域支援センター きらら 医大校 (福島市光が丘1番地 県立医科大学附属病院内)

TEL 024-548-2541 FAX 024-548-0606 E-mail sukagawa-sh-idai@fcs.ed.jp

ホームページ <https://sukagawa-sh-idai.fcs.ed.jp>

〈対象〉 通院・入院をしている幼児や児童生徒とその保護者、教員

〈内容〉 □電話相談 □来校相談 □学校等への訪問相談 □教員・関係者を対象とした研修支援
□学習支援…短期入院時や定期通院時に学習の支援を受けることができます。

小・中学生：1日1～2コマ(1コマ45分)

高校生：1日1コマ

ICT機器の貸し出しや在籍校に出かけて支援説明等も
行っています。

須賀川支援学校医大校



ホームページ



お子さんとのかかわりを一緒に考えましょう

お子さんについて悩んでいませんか？

- ・友だちとうまく遊べない
- ・うまくコミュニケーションがとれない
- ・嫌なことがあると、すぐに手がでてしまう
- ・集団で活動できない
- ・落ち着きがない
- ・学習面での心配がある など...



けやっきー

先生方への支援

資料の準備、面倒な手続きなど、
一切いりません。
まずはお電話ください。



○相談支援（訪問相談）

園や学校に直接訪問させていただき、気になるお子さんの支援策について、先生方の困り感に寄り添いながら考えます。

○夏季セミナー2026 7月18日（土）開催

先生方向けの研修会です。

テーマ 「発達障がいの理解」

講師 日戸由刈先生（相模女子大学） 梅田真理先生（宮城学院女子大学）



けやきっこ

問い合わせ先：福島大学附属特別支援学校 相談部
電話 024-546-0535

保護者の方への支援

相談先として保護者の方にご紹介ください。

○相談支援

対象 県北地区に在住の幼児・県北地区に在住の通常学級に在籍する児童
(小学校4年生まで)

内容 ① 教育相談 ② 課題指導 ③ 在籍幼保小への訪問 ④ 情報提供

※ ①②については有料

○子育て支援セミナー2026 12月4日（金）開催

地域の保護者・子育てに興味のある方・先生方向けの研修会です。

テーマ 「ペアレントトレーニング」

講師 佐藤利憲先生（福島県立医科大学）



問い合わせ先：福島大学発達支援相談室「けやき」（福島大学附属特別支援学校内）
住所 福島市八木田字並柳71番地
電話 024-546-0538

年間を通していつでもご相談いただけます。
まずはお気軽にお電話ください



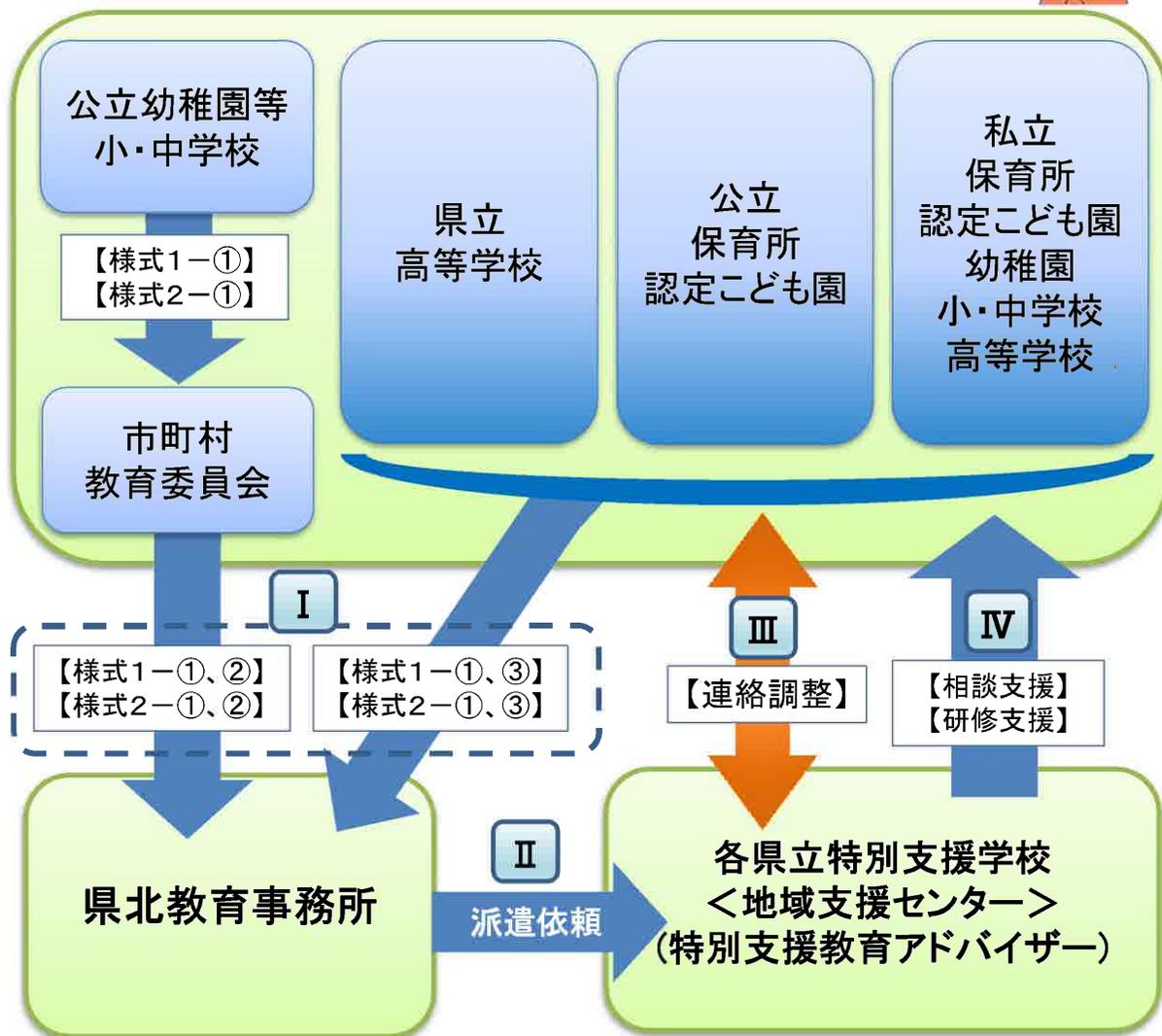
学校HP

令和8年度 地域支援体制整備事業 「幼稚園、小・中学校、高等学校、市町村教育委員会等 における相談・研修支援」の依頼手続き

- ◆相談支援【様式1-①、②、③、④】
- ◆研修支援【様式2-①、②、③、④】



県北教育事務所のホームページからも、依頼様式をダウンロードすることができます。



電話連絡後

- I 県北教育事務所へ依頼文書を提出してください。(メール、FAX、郵送等)
※公立幼稚園、小中学校は、市町村教育委員会を経由して、書面で申込みます。
- II 教育事務所より当該特別支援学校へ教員の派遣を要請します。
- III 当該特別支援学校と依頼主の学校等で、日程調整等、打合せを行います。
- IV 特別支援学校教員が当該学校等を訪問し、支援を行います。

特別支援教育に関する相談・研修支援の依頼について

県北教育事務所

「地域支援体制整備事業」
をご活用ください！



【まず電話でご相談ください】

県北教育事務所 TEL 024-521-2818 FAX 024-521-2870
学校教育課 指導主事 特別支援教育担当 佐藤 真智子



特別支援学校のセンター的機能を活用した相談支援・研修支援を行います

学校等からの相談内容やニーズに応じて、その専門性を有した県内の県立特別支援学校の教員を派遣します。

聴覚支援学校
福島校
【聴覚障がい】

大笹生支援学校
【知的障がい】

だて支援学校
【知的障がい】

あだち支援学校
【知的障がい】

須賀川支援学校
医大校
【病弱・虚弱】

視覚支援学校
【視覚障がい】

特別支援教育
センター



県北教育事務所

郡山支援学校
【肢体不自由】

<こんなことができます!>

相談支援

- 障がいや病気により配慮を必要とする幼児児童生徒の対応に関する助言。
- 発達や学習・行動面で気になる幼児児童生徒のつまずきの背景・要因に応じた助言。
- ケース会議による支援策や合理的配慮の検討、入院している児童生徒の学習保障や退院後の配慮についての相談。
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・活用・引継ぎ支援。
- 校内研修の企画・運営に関する助言、協力。

研修支援

- 特別支援の制度等に関する研修。
 - 校（園）内支援体制整備と充実に関する研修。
 - 障がいの理解や啓発に関する研修。
 - 幼児児童生徒の理解に関する研修。
 - 特別支援学級・通級指導教室の授業づくり等に関する助言（授業の構想、教材教具、教育課程に関する支援、障がいのある幼児児童生徒の学びの場や進路についての情報提供等）。
 - 特別支援教育に関する教員研修（ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり等）。
- ※ 困難事例への継続相談、目的に応じた複数の校内研修など、学校のニーズに応じて複数回訪問することも可能です。

「個別の教育支援計画」等
をご準備ください。



電話後、書面での派遣依頼をお願いします。
申請方法はP24をご確認ください。

